１－６．関連計画

（１）第６次玉東町総合計画（令和３(2021)年３月策定）

玉東町では、平成 23（2011）年策定の第５次玉東町総合計画が計画期間を終えたことから第６次総合計画を令和 3（2021）年３月に策定した。計画は、町の目指すべき将来像及び政策の大綱等を示した「基本構想」と、それを実現するための具体的な施策及び基本事業を体系化した「基本計画」から構成される。計画期間は令和 3（2021）年度から令和 12（2031）年度までの 10 年間としているが、基本計画は中間年度令和 7（2025）年に見直しを行う。

当町のキャッチフレーズとして「みかんと史跡の里」を掲げ、まちの将来像を「一人ひとりが手をとりあい、未来へ向かって挑戦するまち」と提唱する。

基本目標Ⅰ-①自然と共生する快適な生活環境

③公園･緑地等の整備

❶公園・緑地のもつ多面的役割を持続させるため、公園・緑地の適正な配置と計画的な整備・改修を図ります。

❷各公園の地理条件や特性を活かし、イベント集客や収益面等、経営的視点に立った管理運営に努めます。

❸国指定史跡西南戦争遺跡に係る史跡公園については、これまで守られてきた周辺の自然環境や生業により維持されてきた側面があります。有用な資源として将来のまちづくりに向けて展開していくためにもその保全に取り組みます。

基本目標Ⅰ-②機能性の高い魅力的な生活空間の整備

①木葉駅を核とした賑わい創出プロジェクトの推進

❶「町の玄関口」となる駅前を「町の顔」と位置付け、賑わいの拠点である「ぷらっとぎょくとう」「ゆめ・ステーション・このは」への誘導を図る等、人々が回遊したくなる魅力ある空間の形成を目指します。

❷木葉駅周辺の回遊性の向上・活性化に向けて利用者の視点から課題を見つめ、快適に利用できる歩いて楽しい駅周辺の形成や、さらなる賑わいの創出を推進します。

基本目標Ⅱ-③生涯の生きがいづくりと青少年育成

①生涯学習の充実

❷住民が主体となって活動を行う玉東フットパス愛好会等の既存団体や、新たな文化関係団体等の立ち上げを支援します。

❸地域や学校と連携して様々な事業を実施し、子どもが主体的に地域の行事や活動に参加できるような仕組みづくりを検討していきます。

❹国指定史跡西南戦争遺跡をはじめ、町の文化や自然について子どもから大人まで学ぶ機会を設け、生涯学習を通して地域に対する誇り・愛着を醸成する取り組みを行います。

③施設の充実

❷国指定史跡西南戦争遺跡をはじめ、町の文化財について適切な保存整備を行い、フィールドミュージアムとして住民の学びの場の充実を図ります。

基本目標Ⅲ-③高齢者福祉の充実

①社会参加と生きがいづくり

❷地域で活動するサポーターの養成を継続し有償ボランティア活動を定着させ、地域活動の活性化や高齢者の生きがいづくりを推進します。

❸文化財の清掃や案内等のボランティア活動を通してまちづくりへの参画意識を高め、一人ひとりが主体となって町にかかわることで充足感を実感できる生きがいづくりを推進します。

❹現在の無料循環バスと併せ、新たに必要とされるデマンド交通※を検討する等交通弱者にとって住みよいまちを目指します。

※デマンド交通=電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一形態。

基本目標Ⅳ-④地域特性を活かした観光の振興

①観光 PR の充実

❷国指定史跡西南戦争遺跡は、国内最後の内戦の地として唯一無二の地域資源であるため、町内全域の文化財や観光施設とあわせて積極的に町内外へのＰＲを行い、町の魅力発信に努めます。

②地域資源等を活用した観光基盤の整備

❶木葉山・半高山等、玉東フットパスコースをはじめ、本町固有の観光資源から観光地づくりの戦略に沿った環境整備や情報拠点の設置、移動手段の確保やイベント企画等の充実を図ります。

❷近隣市町と連携し、西南戦争における遺跡群の保存と同時に観光面での活用を図るため、「西南戦争遺跡フィールドミュージアム構想」の実現に向けた取り組みを推進します。

❸国内外からの様々な観光客を受け入れられるよう、多言語表記の案内看板の設置や観光施設の環境整備を推進します。

❹ふれあい広場（オレンジ公園）をはじめ町内公園を観光資源の一部として利用するため、公園周辺地域の特性を生かした公園整備を行い、地域の観光振興を図ります。

③観光客の受入体制の充実

❶観光に関係する機関等が中心となって、地域資源を活かした観光客のおもてなし体制の充実を図ります。

❷「食」や「農業体験」等の新たな観光商品・メニューの開発を通じ、観光客の受入体制の強化を促進します。

❸地域ボランティア等を含めた多様な主体による受け入れ体制の育成・支援を図ります。

（２）玉東町人口ビジョン（令和元(2019)年度改訂版）（令和２(2020)年３月策定）

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案して、本町における人口の動向を分析し 2060 年の人口を見通す等、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの。

社人研の推計結果と２つのシミュレーションによって将来人口を推測している。

また、町内 535 世帯に住民アンケートを実施し、(1)結婚・出産・子育て、(2)移住・定住について意向を調査している。

アンケート結果のうち「子ども女性比」と「純移動率」を反映させた人口の将来展望として、2060 年で 4,049 人の将来人口を見込む。これは社人研推計の 2060 年 3,198 人との比較で、およそ 850 人の人口減少を抑制した水準となる

（３）第２期玉東町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和２(2020)年３月策定）

国が策定した第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度までの 5 年間を計画期間とする。

4 つの基本目標に「数値目標」を掲げるとともに、具体的な施策に「重要業績評価指標(KPI)」を設定し、玉東町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会において施策や事業の効果検証を行い、必要に応じ改善する仕組み(PDCA サイクル)を構築した。

行政全般にわたる目標である玉東町総合計画の中でも、特に第２期玉東町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた施策を重点的に推進するものである。

施策大綱Ⅰ

稼げるまちをつくり、安心して働けるようにする(地域資源を活かした産業による雇用創出)

具体施策①雇用の創出と特産品開発の推進

・地域資源を活かしたものづくり産業からの創業と同産業による雇用創出を図るとともに、町内金融機関及び玉東町商工会と連携した創業支援を推進します。

・これまでの地方創生の取り組みの中で、商工会、農業者等と連携して誕生させたまちづくり会社「一般社団法人ぷらっとぎょくとう」を核として特産品等の販路拡大の取り組みを支援します。

具体施策③観光ルートの開発、整備

・西南戦争遺跡をはじめとした町内の史跡や施設をめぐるフットパスコースを設定し、広域的な観光ルートの開発と併せて商業施設等の活性化を図ります。

・他市町と連携した広域観光ネットワークを構築することで周遊性を高め、観光客の増加、関係人口の増加及び観光消費の拡大を図ります。

施策大綱Ⅱ

このまちへの新しいひとの流れをつくる(居心地のいい、住んでみたい、かえってきたいまちづくり)

具体施策①木葉駅周辺施設の利活用と新たな環境整備

・木葉駅前が町の賑わいの拠点となるよう、また、「居心地のいい、住んでみたい、かえってきたいまち」の象徴となるよう既設の施設や広場の利活用を進めます。

施策大綱Ⅳ
安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる(安心して暮らせる地域づくり)
具体施策④広域連携の推進
・産業振興、医療、福祉、公共交通、防災及び教育文化等、町民が安心して快適に暮らすうえで必要な生活関連機能の充実のため、熊本連携中枢都市圏や玉名圏域定住自立圏での取り組みを推進します。

施策大綱Ⅴ
多様な人材の活躍を推進する(誰もが活躍できる環境の構築)
・町だけでなく、企業、商工会、各種団体、住民等、地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として参画できる環境づくりを進めます。女性、高齢者、障害者、外国人等誰もが活躍し、多様性に富む豊かな地域社会をつくり、交流しながらつながりを持って支え合う体制づくりを目指します。新しい発想やビジネスが想像され町の地方創生に資するよう工夫を凝らします。

施策大綱Ⅵ
新しい時代の流れを力にする(Society5.0 及び SDGs の推進)
・Society5.0 の推進に向けて、情報通信基盤等の環境整備を進めた上で、未来技術の活用による課題の解決、町の魅力向上を図ります。
・持続可能なまちづくり・地域活性化を推進するに当たって、SDGs の理念を意識して地方創生を推進していきます。

１－７．計画の実施

本計画は、令和４(2022)年４月１日から施行する。

なお、計画期間は令和 14(2032)年３月 31 日までの 10 年間とし、周辺地域の状況、社会情勢の変化等への対応を考慮し、必要に応じて計画の内容を見直しながら中長期的な将来目標に向けて引き続き検討を進めるものとする。

第２章　計画地の現状

２－１．地理的環境

（１）玉東町の位置

玉東町は熊本県北部・玉名郡の東南端に位置し、東は熊本市（旧植木町）、西は玉名市、南は熊本市（河内町）、玉名市（天水町）、北は和水町、山鹿市（鹿央町）に接している。

町域は東西約４km、南北約９kmで南北に長く、総面積は 24.33 ㎢である。

図８．玉東町の位置

（２）玉東町の地形・地質

玉東町の自然地形は、北に木葉山（286m）、国見山（389m）を主峰に山々が反り立ち、南に金峰山系の三ノ岳（681.3m）から伸びる丘陵地がゆるやかに発達している。この南北の山に挟まれるように菊池川の支流である木葉川が西に向かって流れ、周辺に低地帯が広がり現在の町の中心部となっている。

玉東町の地質は、北部山地は変成岩類、主に石英片岩、雲母片岩、角閃岩からなる。一部に石灰岩を産出し、石灰岩の採掘は江戸末期からの町の主要産業となっている。また、南部金峰山系の山地は第三紀から第四紀にかけてできた新しい火山体で、主に安山岩や凝灰角礫岩と阿蘇起源の火砕流堆積物からなる。三ノ岳から緩やかに伸びるこれら火山丘陵地には浸食による谷が発生し、起伏に富んだ地形をなす。

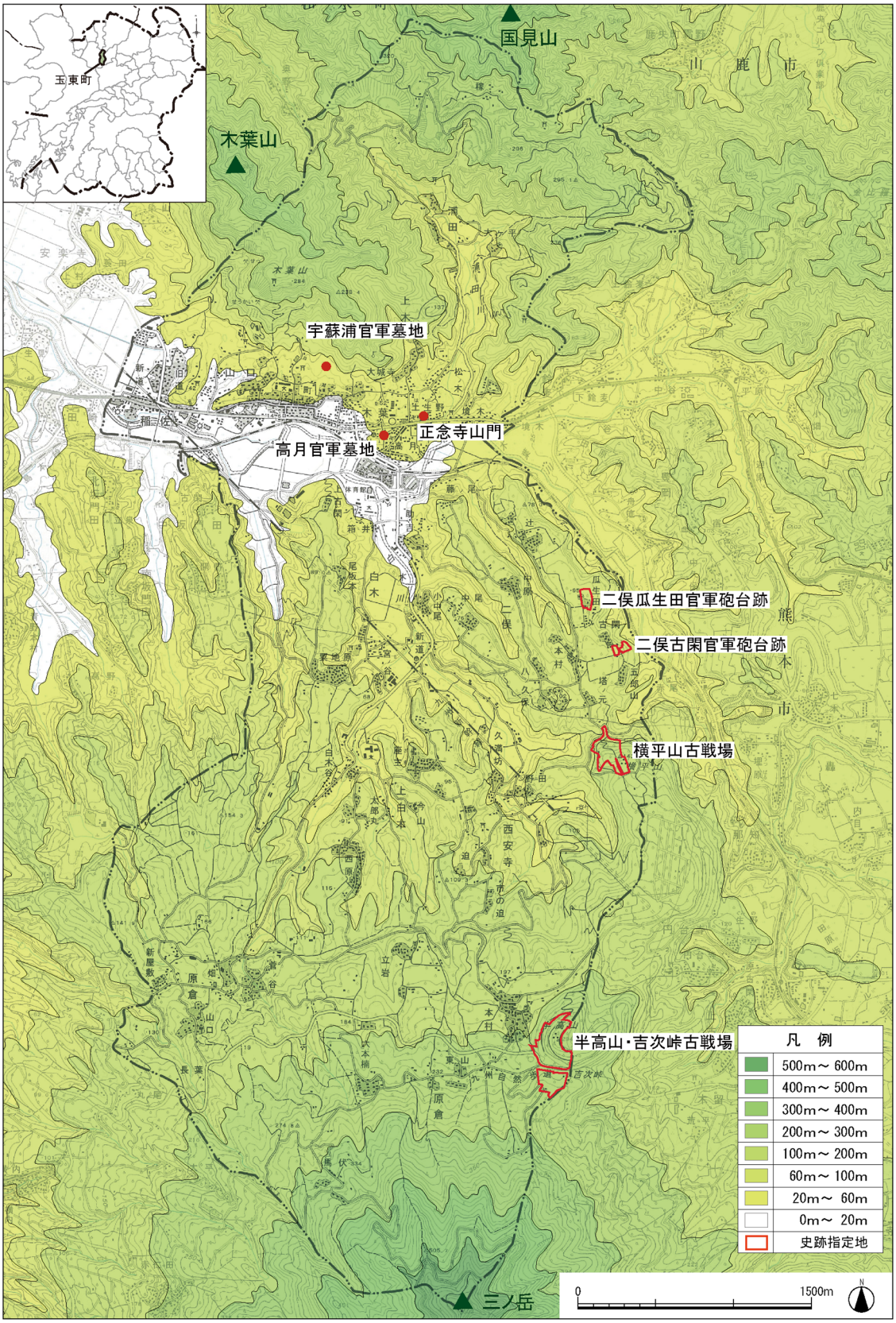
玉東町
国見山
木葉山
宇蘇浦官軍墓地
正念寺山門
高月官軍墓地
二俣瓜生田官軍砲台跡
二俣古閑官軍砲台跡
横平山古戦場
半高山・吉次峠古戦場
三ノ岳
凡　例
500m～ 600m
400m～ 500m
300m～ 400m
200m～ 300m
100m～ 200m
60m～ 100m
20m～ 60m
0m～ 20m
史跡指定地
0
1500m
N

図９．玉東町の地形図

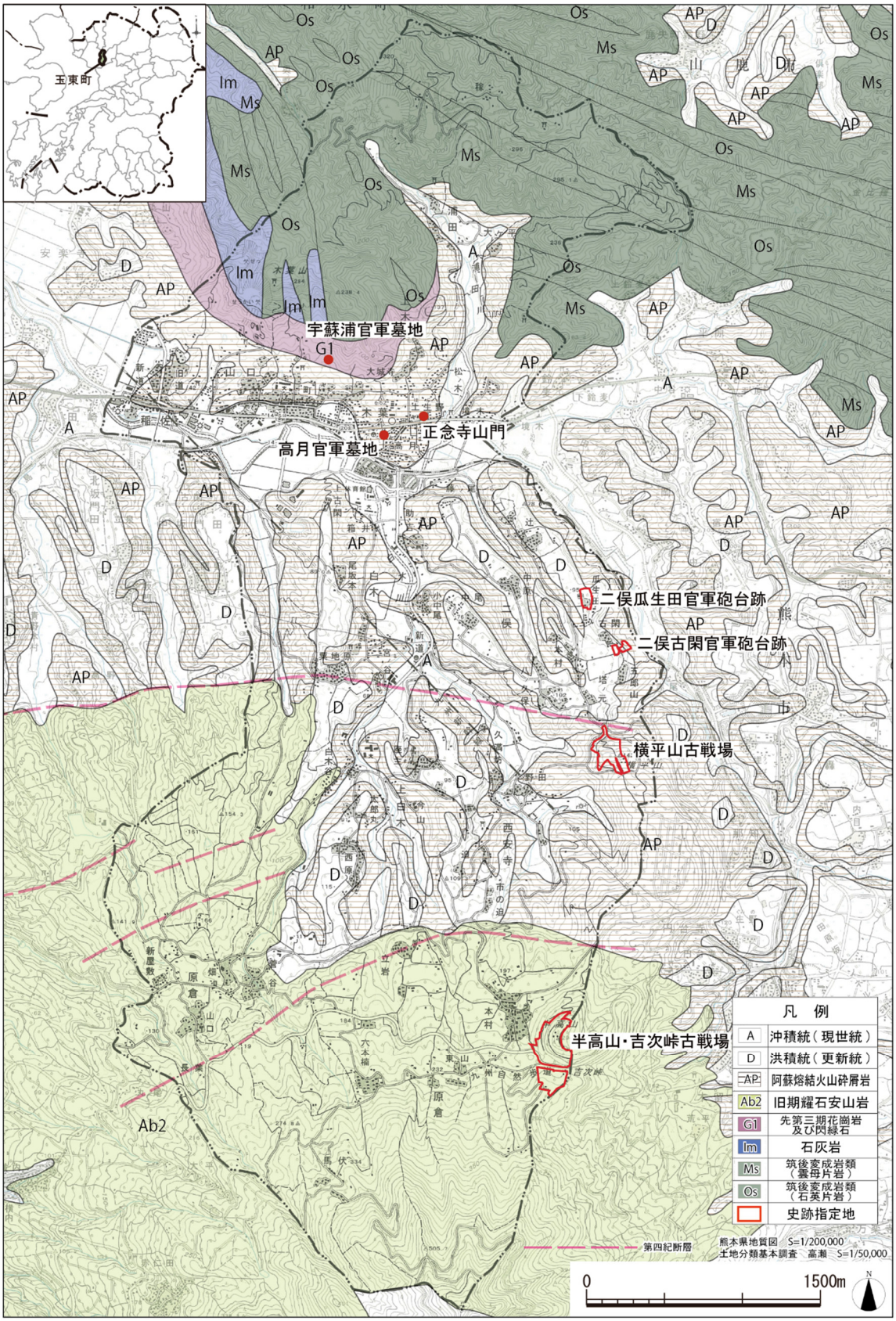
玉東町
宇蘇浦官軍墓地
G1
正念寺山門
高月官軍墓地
二俣瓜生田官軍砲台跡
二俣古閑官軍砲台跡
横平山古戦場
半高山・吉次峠古戦場
Ab2
凡　例
A 沖積統（現世統）
D 洪積統（更新統）
AP 阿蘇熔結火山砕屑岩
Ab2 旧期耀石安山岩
G1 先第三期花崗岩及び閃緑石
Im 石灰岩
Ms 筑後変成岩類（雲母片岩）
Os 筑後変成岩類（石英片岩）
史跡指定地
第四紀断層
熊本県地質図　S=1/200,000
土地分類基本調査　高瀬　S=1/50,000
0
1500m
N

図 10．玉東町の地質図

２－２．自然的環境

（１）玉東町の気候

玉東町周辺の令和元(2019)年度の年間平均気温は摂氏 17.6 度で、夏季（7～8 月）の最高気温は 31.6 度。冬季（12～2 月）の最低気温は－3.5 度で周辺と比べても厳しく、内陸型というより山地型の特色を示している。年間平均降水量は 122 ミリである。

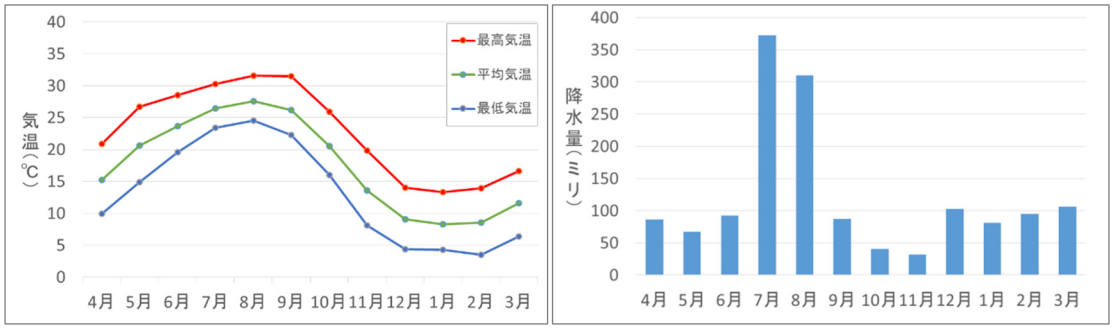

図 11．玉名地域の降水量と月平均気温（令和元(2019)年度気象庁データ観測値：岱明）

（２）玉東町の植物・動物

自然植生は、南北にスギ・ヒノキが群集しており、北西にはアラカシ・ナンテンの群落がある。玉東町全体にこの地域の里山で見られる、シイ・カシ萌芽林が点在している。また、三ノ岳斜面の上部には植林が行われ、その下部には果樹園が形成されている（保存活用計画参考資料参照）。

哺乳類では、イノシシやキツネ等の中型哺乳類がわずかに生息し、ニホンザルの生息も確認されている。鳥類では、木葉山付近でアオバトが観察されており、サンショウクイが初夏にみられる。南部の三ノ岳斜面ではホオジロやヒヨドリ、ヨタカが生息していることが確認されている。

町域の山や丘陵地ではイノシシが確認されており、半高山や横平山、二俣砲台や宇蘇浦官軍墓地にはイノシシが侵入した形跡が確認されている。また、宇蘇浦官軍墓地のある木葉山周辺ではニホンザルが確認されているが、史跡地への進入形跡は確認されていない。

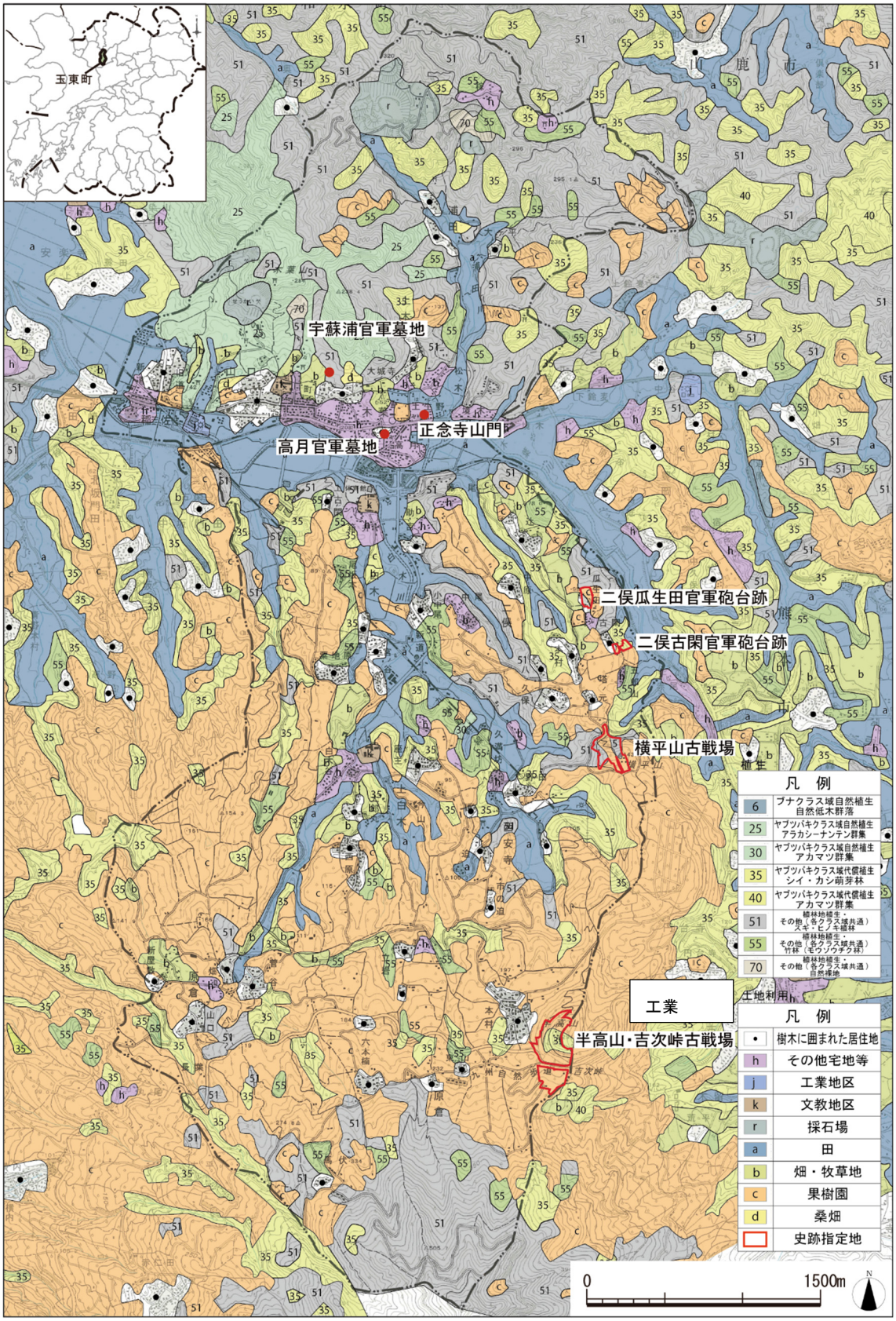

図 12. 玉東町の植生・土地利用図

２－３．歴史的環境

町には旧石器時代の遺跡は確認されておらず、縄文時代以降の数多くの遺跡が存在する。以下、時代ごとに主要な遺跡を紹介し、町の歴史的環境について概要を述べる。

（１）縄文時代

三ノ岳中腹の原倉地区では、立岩、大谷の石器製作址が遺物の表面採集によって確認されている。

三ノ岳は前述のとおり安山岩を主体とした山であり、それを利用した石斧等が採集されているが、いずれも未調査であるため詳細は不明である。その他、原倉の東山遺跡で押型文土器等早期から晩期の土器が採集され、町の東側に位置する二俣台地上においても石鏃や敲石等が採集されている。

（２）弥生時代

町の北側の天神山古墳の周辺や町の南側の東山遺跡の周辺において弥生時代後期の遺物が採集、確認されている。また、平成 16(2004)年から平成 17(2005)年度の九州新幹線建設工事に伴い発掘調査された稲佐津留遺跡では、稲佐台地の南西側平野にて弥生時代後期の銅鏡や巴形銅器が出土している。

（３）古墳時代

二俣台地の西端に位置する助吉地区には 4～5 世紀のものと推測されている石棺群がある。墳丘は無く 10 数基の石棺が一部露出した状態で検出された。昭和 63(1988)年の調査では、箱形、舟形、家形の 3 種、11 基の石棺と 4 体の人骨が検出されている。

町の中央を流れる白木川を中心に 2 基の古墳と石棺群が確認されている。

上古閑古墳は台地の先端部に築かれた円墳で、主体部は大型の箱形石棺である。盗掘を受けているため副葬品は不明であるが、石棺の構造から 5 世紀のものと考えられている。天神山古墳は低地に築かれた円墳で箱形石棺を主体部とする。上古閑古墳に後続するものと考えられている。

その他、6～7 世紀頃と思われる横穴墓が白木川の左岸の凝灰岩壁に 4 基確認されている。昭和 61(1986)年に実測調査がおこなわれているが、遺物は出土していない。

（４）古代

稲佐地区において奈良時代末から平安時代中期に存続した廃寺跡が確認されている（熊本県指定史跡稲佐廃寺跡）。地区内の熊野神社の周辺から宇野廉太郎らによって布目瓦が多量に採集されていたが、昭和 27(1952)年に田辺哲夫ら玉名高校考古学部によって測量調査がおこなわれた。昭和 46(1971)年に松本雅明らは神殿の床下に礎石を発見、法起寺式の伽藍配置の寺院が明らかになった。瓦の型式から朝鮮半島との関係性の有無が論じられている。

この他、町内では製鉄関連遺跡が多く確認されている。県下約 7 割の関連遺跡が玉名・玉東地域に集中しているといわれ、特に精錬遺跡は玉名の小岱山周辺、大岳周辺、そして玉東町の三ノ岳周辺に集中する。玉東町では古代末～中世初期の製鉄遺跡が 10 カ所確認されている。その一つ、西原製鉄遺跡は三ノ岳の山麓に位置する遺跡で、昭和 54(1979)年の調査によって 2 基の製鉄炉が検出された。炉が検出されることは珍しく、熊本県指定史跡となっている。

（５）中世

鎌倉時代には遠江国より下向した相良氏が山北地域を支配したといわれている。その菩提寺として現在は廃寺となっている熊本県指定史跡西安寺跡があり、相良氏の銘が刻まれた三基の五輪の塔群等がある（熊本県指定重要文化財）。調査は昭和 38(1963)年に田辺哲夫らによって行われ、廃寺の礎石や瓦等が検出された。また、平成 19(2007)年には五輪の塔について再検討が行われている。この五輪の塔の存在が示すように 13 世紀代には相良氏が山北地域を治めていたことはわかっているが、詳細は未だ不明である。平成 22(2010)年度に行った二俣瓜生田官軍砲台跡における調査では、二俣台地の東端において中世期と思われる大溝が確認された。その性格については不明である。

その他、木葉地区では木葉山の南西裾部に位置する丘陵において、掘立柱建物群や堀切を伴う南北朝時代ごろの城跡が確認されている（稲佐城跡）。南北朝時代においては宇都宮氏、戦国時代においては小森田氏の居城であったとの伝承が残っているが、詳細は不明である。

（６）近世

16 世紀末より木葉地域は内田手永、山北地域は小田手永に属した。内田手永は「往還筋にあり、交通の便よく、出小屋（出店）が見られるほど」だったという。産業では銅の試掘や石灰焼きが興り、近年まで採掘が行われている。また、木葉焼と称される焼き物が盛んであった。『玉名郡村誌』の明治 11(1878)年の調査によると焼物職は 12 戸もある。特に素焼きの猿（木葉猿）と火鉢が有名であり、猿は「南総里見八犬傳第九輯」にも取り上げられ土産物として珍重されたようである。その他、木葉には旅籠や酒屋、種々雑多な業種があり、宿場町、在郷町として栄えた。

一方、小田手永に属する山北の村々は「田方少く、畑方は山付、段畑かち、地味いたってよろしからず、其上馬通成り難し」とされる。産業は農業が中心で、木葉の在郷町を支える農村集落が形成されていた。

この他、熊本城を起点とする豊前街道の脇往還である三池往還が町の北側を、吉次往還が町の南側を東西方向に通り古来より往来が盛んであった。これらの往還は玉名高瀬で合流し、さらに三池（福岡県）へとつながっている。高瀬は菊池川や大浜の港を利用した水運で栄えたところであり、玉東町は熊本と高瀬を結ぶ地域として交通の要衝にあったといえる。

（７）近現代

幕末から明治維新の動乱期後、明治政府の新体制による政策は例外なく玉東の各地域にも実施された。明治 4(1871)年廃藩置県等によって旧来の幕藩体制は崩壊し、地租改正等の地方行政制度の改革が次々と行われた。

西南戦争の開戦直前から戦争中にかけて熊本県下各地で地租改正の費用をめぐる不正等を追及する農民一揆が展開した。

県北部では戸長征伐が高揚すると、県は集会禁止の布達をだすと同時に県官や警部・巡査を出張させ説諭にあたらせた。そのため一揆は 2 月上旬には鎮まった。

その後すぐに県北部の一帯は西南戦争の戦火にみまわれた。木葉地域は政府軍の基地の町と化し、現玉東町のその他の地域は家を焼かれ田畑を荒らされる等、多大な被害を受けた。戦後においても遺体の埋葬や被災地の復興等、地域の人々に課せられた負担は重かった。

しかし、その後の産業発展等目覚ましいものがあった。木葉地域の石灰産業、蚕糸（生糸）産業、山北地域のミカン栽培は地域の代名詞ともなっている主産業である。石灰焼きは木葉山の良質な石灰岩を利用したもので、天保年間（1830～1844）にはすでに行われており明治期から近年に至るまで隆盛を極めた。蚕糸業は、明治 41(1908)年に木葉で器械製糸による一瀬製糸工場が創業、昭和 17(1942)年に解散し、時を同じくして熊本繭短繊維株式会社が創業した。同工場は昭和 19(1944)年に熊本繭繊維株式会社木葉工場と社名を変更し、50 年以上にわたり操業を続け地域産業を支えた。

一方、山北地域では金峰山三ノ岳の日当たりが良く風通しのよい緩斜面地を利用して果樹の栽培が明治 30(1897)年代頃から始まった。昭和初期には山林を開墾して、りんごや梨の産地形成がなされ、昭和 11(1936)年には「山北村柑橘研究会」（その後「山北村柑橘栽培組合」と改める）が結成され、ミカン栽培の取り組みが始まった。当初、会員数 16 人という少数精鋭で「合理的ニ栽培」することを目的に温州ミカン、早生温州ミカンの栽培が行われていた。この栽培が隆盛期を迎える頃、日中戦争が始まり、5 年後に会は消滅する。しかし、栽培自体は継続的に行われ、戦後復興の中で徐々に拡大した。昭和 25(1950)年には手開墾による園地拡大がおこなわれ､昭和 30 年代中から後半には機械を使った大規模な開墾が行われるようになった。こうして生産農家も増大し、玉東町の主産業として今日に至る。

そして、それら産業を支えたのが鉄道の開通によるインフラの発達である。九州鉄道は、明治 22(1889)年に博多・久留米間、明治 24(1891)年 4 月に久留米・高瀬間、7 月に高瀬・熊本間が開通した。現在の木葉駅ができたのは、その後の明治 25(1892)年 4 月 1 日である。当時、木葉地域から産出される石灰、蚕糸や山北地域や小天地域からのミカンの輸送のために駅設置の機運が高まり有志によって誘致され、その後の物流に大きな役割を果たした。現在は鉄道を利活用した物流は途絶えたが、国道 208 号と並び町の玄関口としての役割を果たしている。

【参考文献】

・熊本市教育委員会 2010『稲佐津留遺跡・西安寺遺跡－九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告』熊本県文化財調査報告第 263 集
・田辺哲夫 1958『肥後国玉名郡村誌』玉名民報社
・玉東町史編集委員会 1995『玉東町史通史編』
・玉東町史編集委員会 1995『玉東町史西南戦争編・資料編』

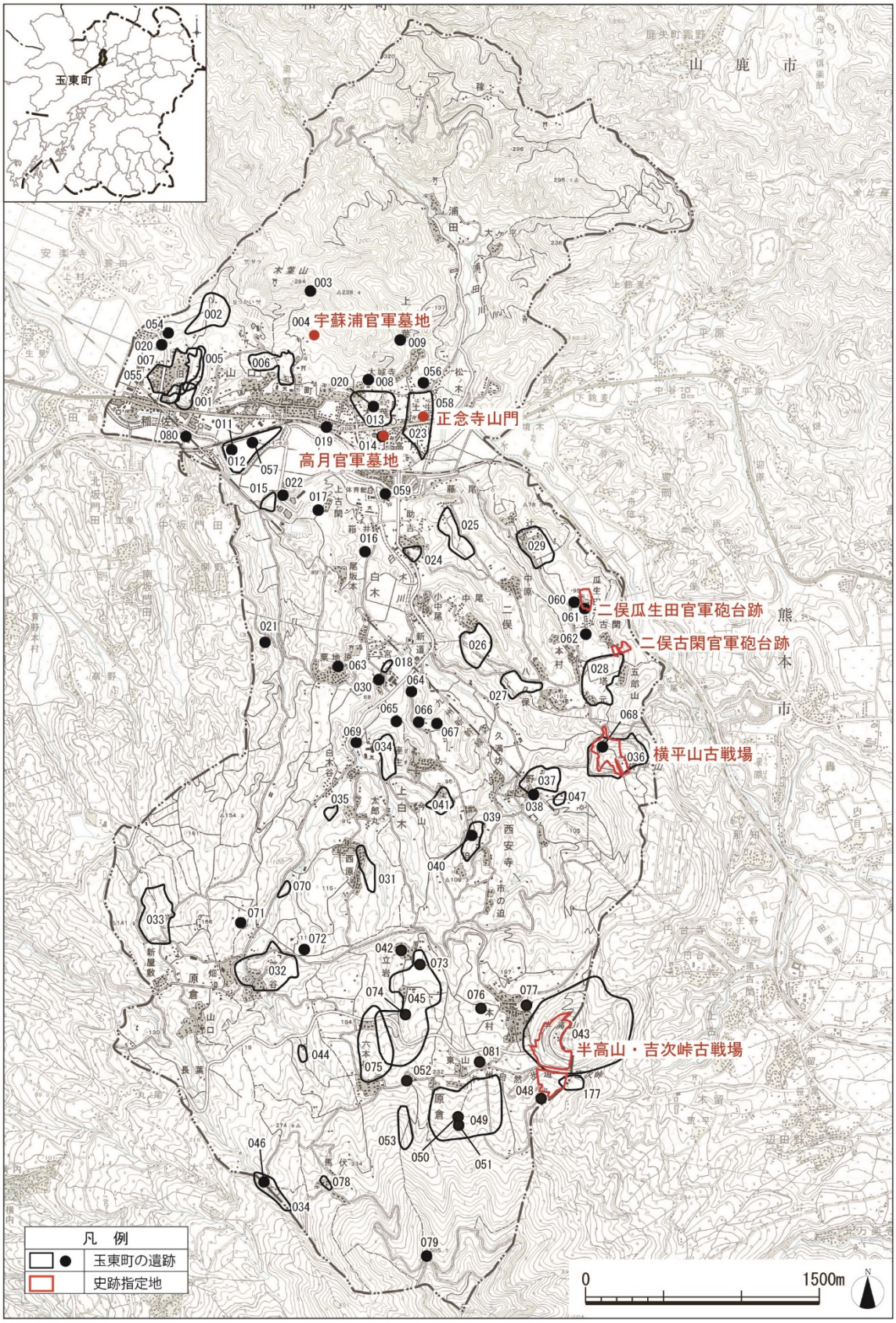

図 13.　遺跡の位置と環境

表２．玉東町の遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
1	稲佐廃寺跡	稲佐切畑	古代	寺社	県	古代寺院、塔礎石、金堂基壇の一部、布目瓦多量
2	稲佐城	稲佐	中世	城		同上地、本丸跡に熊野神を祀る
3	伊形霊雨の墓	木葉住生松	中世	墓	町	時習館居寮、詩作、国文に長じた
4	宇蘇浦官軍墓地	木葉宇蘇	近代	墓地	国	谷村計介墓
5	宮の元	稲佐切畑	弥生～中世	包蔵地		
6	山口	山口長宗	弥生～中世	包蔵地		
7	立福寺跡	稲佐	中世	寺社		
8	円久寺跡	上木葉	中世	寺社		
9	大城寺跡	上木葉	中世	寺社		
10	稲佐切畑	稲佐切畑	弥生	包蔵地		熊野神社全域、弥生土器片多量
11	窪田越前塚	木葉久保田	古墳	古墳		墳丘上に箱式石棺の一部露出
12	町下	木葉町下	古代・中世	包蔵地		青磁・土師器・須恵器・瓦器破片
13	木葉宇都宮城跡	木葉丸田	中世	城		小森田城跡、役場裏手
14	高月官軍墓地	木葉高月	近代	墓地	国	
15	音丸	白木上古閑	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器
16	箱井古墳	白木箱井	古墳	古墳		高台上小円墳、石材露出する
17	上古閑古墳	白木上古閑	古墳	古墳		箱型、蓋入母屋の石棺
18	二郎丸横穴群	白木二郎丸	古墳	古墳		２基
19	揚の六地蔵	木葉前田	中世	石造物		銘があるが風化し、不詳
20	有栖川宮督戦地	木葉丸田	近代	軍事	町	碑あり
21	白木柏軒の墓	白木口の坪	近世	墓		
22	世尊寺跡	木葉世尊時	中世	寺社		真言宗、寺号築地蓮華院に移す
23	土生野	木葉土生野	古墳	包蔵地		部落内に須恵器・土師器を包含する
23	土生野	木葉土生野	縄文～古代	包蔵地		須恵器・土師器
24	助吉古墳	二俣助吉	古墳	古墳		封土を失い、石材堆積
25	陣林	二俣陣林	縄文～古代	包蔵地		
26	堂の元	二俣堂の元	縄文～古代	包蔵地		
27	京塚	二俣京塚	縄文～古代	包蔵地		
28	前久保古墳碑群	二俣前久保ほか	中世	石造物		
29	辻	二俣辻	縄文後晩期	包蔵地		
30	小清水横穴	白木小清水	古墳	古墳		風化深い、２基
31	西原製鉄跡	原倉西原	古代	生産	県	鉱滓・焼灰あり
32	原倉	原倉畑ほか	弥生	包蔵地		弥生土器・石器
33	原倉西	原倉建が迫ほか	古墳	包蔵地		須恵器
34	城山城跡	上白木城山ほか	中世	城		山北小学校一帯
35	太郎丸権現山	上白木太郎丸	古代	生産		スラッグ・ふいごの羽口
36	横平山古戦場	二俣中道ほか	近代	戦跡	国	西南役、濠跡、記念碑あり
37	西安寺	西安寺上の原ほか	弥生末	包蔵地		土師器・須恵器片・住居跡
38	久満坊埋蔵銭出土地	西安寺吉丸	古代・中世	包蔵地		中国唐～明 479 個
39	西安寺跡	西安寺寺中尾ほか	中世	寺社	県	礎石・排水溝
40	西安寺五輪塔群付板碑群	西安寺寺中尾	中世	石造物	県	相良氏五輪塔外、板碑

表３．玉東町の遺跡(つづき)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
41	座主古塔碑群	上白木座主	中世	石造物		笠塔婆・五輪塔
42	立岩石器製作	原倉立岩屋敷	縄文	生産		石斧・剥片多数
43	半高山古戦場	原倉半高	近代	戦跡	国	
44	釜の口製鉄跡	原倉山口原	古代・中世	生産		鉱滓多数散布・ふいごの羽口、焼土
45	東山西	原倉荒平	縄文～弥生	包蔵地		縄文後晩期御領式、弥生
46	金糞谷製鉄跡	原倉藤原	古代・中世	生産		
47	西安寺製鉄	西安寺寺中尾	古代	生産		スラッグ
48	吉次峠古戦場	原倉荒強当	近代	戦跡	国	西南役、佐々軍駐屯地、谷村計介捕まる
49	東山	原倉荒強当	縄文	包蔵地		縄文後期の土器・石器含包
50	むくろじ製鉄跡	原倉荒強当	古代	生産	町	鉱滓・羽口多量
51	むくろじかじ墓群	原倉荒強当	古代	墳墓		山林中にいくつもの小墳丘点在
52	篠原国幹戦没地	原倉大谷	近代	緑地		石標柱、薩軍武将、明治10(1877)年３月４日戦死
53	大谷石器製作	原倉大谷	縄文	生産	町	安山岩石器多量出土
54	寺山板碑	稲佐寺口	中世	石造物		
55	ガランさん板碑	稲佐馬場屋敷	中世	石造物		
56	官軍本営跡	木葉部田見	近代	戦跡		
57	天神山古墳	木葉町下	古墳	古墳		
58	官軍病院跡	木葉土生野	近代	包蔵地		
59	眼鑑橋跡	二俣鍛冶場	近世	包蔵地		
60	歯吹如来	二俣北原		建造物		
61	官軍砲台跡	二俣瓜生田	近代	戦跡		
62	官軍本営出張所	二俣瓜生田	近代	戦跡		
63	山北八幡宮仁王像	白木栗地原	中世	建造物	町	
64	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木小林		記念物		
65	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木黒牟田		記念物		
66	即身成仏の碑	上白木小林	中世	石造物		
67	弾痕の家	上白木小林	近代	建造物		
68	薩軍仮埋葬地	二俣峠	近代	墓地		
69	眼鑑橋跡	上白木鐘丸	近代	包蔵地		
70	清田原製鉄	原倉清田原	古代・中世	生産		
71	官軍砲台跡	原倉七ツ松	近代	軍事		
72	道標（追分石）	原倉清田原	近世	石造物		
73	薩軍砲台跡	原倉立岩原	近代	戦跡		
74	菖浦谷製鉄所跡	荒平	古代	生産		
75	六本楠	原倉	縄文	包蔵地		
76	原倉清田氏板碑群	原倉登立	中世	建造物	町	
77	原倉清田氏五輪塔	原倉尾池	中世	建造物	町	
78	馬伏製鉄	原倉馬伏	古代	生産		
79	官軍砲台跡	原倉大谷	近代	戦跡		
80	乃木少佐奮戦の地	稲佐平迫	近代	軍事		

・熊本県教育委員会編『熊本県遺跡地図』より

表４．玉東町の指定文化財一覧

No.	区分	種別 1	種別 2	名称	所在地
1	国	史跡		西南戦争遺跡 半高山古戦場 吉次峠古戦場 横平山戦跡 二俣瓜生田官軍砲台跡 二俣古閑官軍砲台跡 高月官軍墓地 宇蘇浦官軍墓地 正念寺	 原倉 二俣 二俣 二俣 木葉 木葉 木葉
2	県	重要文化財	建造物	西安寺五輪塔群付板碑群等	西安寺
3	県	史跡		西安寺跡	西安寺
4	県	史跡		稲佐廃寺跡	稲佐字切畑
5	県	史跡		西原製鉄所跡	原倉字東原
6	町	有形文化財	建造物	山北八幡宮仁王像	白木
7	町	有形文化財	建造物	原倉清田氏五輪塔附板碑群	原倉字本村
8	町	有形文化財	工芸品	西安寺瓦	西安寺
9	町	有形文化財	工芸品	稲佐廃寺瓦	稲佐
10	町	有形文化財	古文書	窪田家古文書	木葉字横町
11	町	史跡		伊形霊雨の墓	木葉字段
12	町	史跡		大谷石器製造所跡	原倉字大谷
13	町	史跡		むくろじ製鉄所跡	原倉字荒強当
14	町	史跡		有栖川宮督戦の地	木葉字丸田
15	町	天然記念物		椰群	稲佐
16	町	天然記念物		楠	木葉
17	町	天然記念物		一位樫	原倉
18	町	無形民俗文化財		西安寺神楽保存会	

（令和４(2022)年３月現在）